

ここが問題！リニア新幹線

第114号 発行 2025年1月20日

リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会 linear-tokyokanagawa @googlegroups.com

東百合ヶ丘工区のトンネル掘進で住民相談会を実施



住民の方を中心に30人が参加

昨年12月15日午後、リニア新幹線を考える麻生の会と東京・神奈川連絡会は麻生区内で今後住宅街で行われるトンネル工事について、ルート周辺の住民を対象に相談会を開催しました。会場には30人が詰めかけました。

相談会ははじめに東京・神奈川連絡会から川崎市内のリニア大深度トンネル工事の現状と問題点を説明しました。

北品川工区では目黒川に酸素濃度4%の酸欠気泡が発生し、小野路工区（町田

市）では住宅の敷地に酸欠気泡（酸素濃度1%）と地下水が発生、工事が中断していることを説明したところ、住民の方から「川崎の工事でも同じことが起こらない保証はない」、「そもそもリニアは必要ない。工事を行うという通知もない。住民の声を無視している」などの声が上がりました。

また、町内会や自治体が地域のリニア問題について積極的に取り上げてくれないとの声がありました。主催者からは「JR東海や川崎市は町内会の幹部に対する説明をしたことで住民の声がまとまると考えている。一人だけでは弱いので、地域で同調する人を集めて自治体や地元出身の議員に訴えることが重要で、長くリニア工事中止で活動している私たちにも問題があれば知らせてほしい。一緒にJR東海や市役所に対し行動を起こすこともできる」と答えました。住民の方から「今工事中止を求めても既に工事が進められているから、反対しても無理ではないか」との声がありましたが、私たちから「あきらめることは事業者の思うつぼである。ほとんどの大規模公共事業が既に工事が進められており費用も投入されているので事業を中止できないという理由で、無理やり工事が進められ、多くのムダな金が浪費されてきた。工事中に起きる被害や将来世代に負担を与えるような工事に対し中止を求め続けることが大切で必要だ」と呼びかけました。

梶ヶ谷工区に続いて、東百合ヶ丘工区の住宅地での本掘進始まる

川崎市内のリニア大深度トンネル工事について、JR東海は東百合ヶ丘工区の本掘進が1月13日に開始したことを明らかにしました。この区間のトンネル残土は横浜港の新本牧ふ頭の埋め立てに利用するため、ダンプカーで横浜港の大黒ふ頭の集積地に運ばれるということで、残土の搬送も開始したと説明しています。

なお、昨年5月27日始まった梶ヶ谷工区の本掘進は1月14日段階で、非常口から約1キロ（1,000m）の宮前区馬絹2丁目まで達しました。

気泡発生問題やシールド工法の質問に対し、ＪＲ東海から回答

東京・神奈川連絡会は昨年８月に発生したリニア大深度トンネル上の目黒川の気泡発生や１０月の小野路工区（町田市）の気泡と地下水の発生を重大な事態と考え、ＪＲ東海に対し６項目の申し入れ書（質問状）を提出しましたが、１月１６日電話による回答がありました。以下、質問と回答です。

- ① 目黒川や町田市の気泡などの発生についてどのように調べ、地表への影響をどのように分析したのか。

回答 「東京都内の事象については東京の工事事務所に問い合わせして下さい」

反論 「ＪＲ東海が同じ事業であり、建設業も大手ゼネコンである。川崎市のルート上の住民の相談会でも、同じような事象が起きるのではないかという不安の声が出ている。無責任な回答である」。

- ② 町田市の道路の亀裂について調査掘進との関連をどのように考えているのか。

回答 「東京の事象なので東京の工事事務所に聞いてください」

- ③ 添加剤を使った泥土圧シールド工法について改善する考えはないのか。

回答 「同じ工区では地質や地質に応じて泥土圧を調整しながら工事を進めているので問題ない。川崎市内の工事は高津層、王禅寺層、柿生層など固結シルト層なので工事の進捗に問題はない」

- ④ 川崎市内でリニアルートの地質調査をやり直す考えはないのか。

回答 「地質調査は十分にやった。専門家の助言をいただきながらやったのでやり直す考えはない」

- ⑤ 具体的な工事の安全策を住民に示し納得できるまでは工事を中止するべきである。

回答 「段取りが終了したので東百合ヶ丘工区の本掘進は１月１３日に開始した」

- ⑥ 国交省や自治体に対し、事態の解決や将来見通しについてどのように説明しているのか。

回答 「工事の進め方については川崎市に説明している。定期的な協議も行っている」

梶ヶ谷工区のトンネル残土は川崎港、東百合ヶ丘残土は横浜港、片平残土は八王子に

１６日のＪＲ東海の回答の際に、いくつかの質問をしました。

まず、梶ヶ谷工区のトンネル工事による残土（建設発生土）は武蔵野南線（貨物線）で１日７往復で川崎港・三井埠頭に運んでおり、一部はダンプカーでも搬送している。東百合ヶ丘の残土は非常から横浜港の新本牧ふ頭埋め立て資材の集積地である大黒ふ頭に運び、片平非常口の掘削土はＵＣＲ（建設資材源広域利用センター）の斡旋で八王子市に運んでいるが運び先は言えないという回答でした。



東扇島では埋立用のリニア残土を投棄

川崎港東扇島掘込部（１３．２ヘクタール）で本格的な埋立工事が進んでいます。三井埠頭に集められた梶ヶ谷工区のトンネル残土は２隻の船に積み込まれ埋め立て地に運ばれ投棄されています。川崎市とＪＲ東海の覚書によりますと、埋立て利用量は１４０万立方メートルを予定しています。川崎市もこの埋立地が出来ても採算が取れない事業に４０億円を投入します。

「目黒川の気泡発生とリニアトンネル工事との関連は解明できなかった」 ～ＪＲ東海が東京の品川区・大田区・世田谷区で調査掘進確認結果説明会開催

ＪＲ東海は昨年１２月１７日（品川区）、１９日（大田区）、２１日（世田谷区）の３回にわたって北品川工区の調査掘進確認結果説明会を開きました。

品川区大井町駅近くのきゅりあんで行われた１７日の説明会で、ＪＲ東海は８月下旬に確認された北品川非常口近くの目黒川の気泡発生について、気泡を採取して調査開始から１か月経過した１１月になって「気泡の酸素濃度は４％だった」ことを明らかにしました。そしてこの説明会では住民から「酸欠気泡を認めながらなぜ調査掘進を進めたか」との質問がありました。

これに対しＪＲ東海は「目黒川には普段から気泡の発生が見られる。リニアトンネル工事との関連を示すことはできなかった。気泡発生の水面は人が近づけない場所だったので、経過を見ながら工事を続けた」と回答しました。質問者からは「気泡発生についてより広範囲、より深くの調査を行え」という追及の声が上がりました。

小野路工区（東京・町田市）の住宅地で発生した気泡・地下水の噴出についてリニア工事が原因と認めたのに、このＪＲ東海の回答は住民の人たちにさらに不安を与えるものです。

説明会の最後にＪＲ東海は「準備が整い次第本掘進を始める」と言明し、説明会が住民の理解を得るものではなく本掘進を始めるための準備会であったことを示したものであったと言えます。



１７日の説明会（品川区）

説明会前に会場前で大規模な抗議行動

説明会開始前の午後５時から、きゅりあん前でリニア中止・品川区民の会、リニアから住環境を守る田園調布の会を中心に３０人が参加する抗議行動が行われました。外環ネット、リニア中央新幹線を考える町田の会、リニア新幹線を考える相模原連絡会、リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会のメンバーもこの行動に参加しました。

リニアトンネル工事について、井戸の湧水や地盤沈下、都内での酸欠気泡の発生などが報道されていることから、多くの市民が抗議のビラを受け取り、抗議団のアピールに耳を傾けていました。



小野路工区の気泡発生で町田の会が緊急学習会

リニア小野路工区の調査掘進で町田市の住宅敷地に酸欠気泡と地下水が噴出した事態について、リニア中央新幹線を考える町田の会は１２月１４日午後、町田市能ヶ谷で「リニア工事と小野路湧水・気泡発生問題緊急学習会」を開催し、工事が原因と認めた気泡・地下水発生の経緯やＪＲ東海、町田市との交渉経過などを参加した住民の方に説明しました。

寒い日でしたが住民の方を含め２０人が集まり、熱心に説明を聞いていました。



学習会で挨拶する
町田の会・藤井代表

1月23日ストップ・リニア！訴訟控訴審に傍聴参加を！

1月23日午後1時半から、東京高裁101号法廷でストップ・リニア！訴訟の第4回口頭弁論が開かれます。12時45分から東京地裁前（地下鉄霞が関駅A1出口）でミニ集会を開きます。

口頭弁論は原告代理人が提出する準備書面の内容を説明することが中心です。そのあと午後3時過ぎから第一議員会館大会議室で裁判報告集会が開かれます。集会の後半に南アルプスのリニア工事関連箇所を踏破した登山家の服部隆さんの報告が予定されています。

傍聴を希望される方は23日12時45分に地裁前にお集まりください。なお、準備書面は岐阜県大湫町の地下水枯渇・地盤沈下や都内の大深度工事による気泡発生などの異常事態に関するJR東海のずさんな調査や責任逃れを追及するほか、リニア沿線各地で起きている被害や住宅の立ち退き問題などを紹介し、国の工事認可の誤りを指摘するものです。



大湫町の渇水の原因日吉トンネル工事

JR東海がリニア関東車両基地着工で安全祈願式～12月25日相模原市で



関東車両基地の予定図

JR東海は昨年12月25日相模原市で、鳥屋に建設するリニア関東車両基地の工事安全を祈願する式典を開催しました。

東京ドーム13個分の60ヘクタールの造成工事を始めるもので、JR東海は2027年9月に造成作業を終了するとしています。自然豊かな場所に高さ30mの土砂を敷き詰める工事は住民の強制的な立ち退きや希少動植物の破壊につながります。

巨大空港をイメージさせる車両基地は異様としか言えません。

今後のリニア、大深度訴訟等の予定

- 1月23日（木）13：30
ストップ・リニア！訴訟第4回口頭弁論（東京高裁101号）
- 1月25日（土）17：00
大深度工事首都圏ネット会議（リモート）
- 2月 1日（土）14：00
東京・神奈川連絡会 新百合ヶ丘駅街頭宣伝
- 2月 5日（水）14：30
山梨明かり訴訟第2回口頭弁論（東京高裁511号）
- 2月 7日（金）13：30
第53回訴訟事務局会議（リモート）
- 2月17日（月）14：00
大深度地下工事認可取消訴訟（東京地裁103号）
- 2月23日（日）13：30
外環道訴訟提訴7周年集会（三鷹市市民協同センター）

ここが問題！リニア新幹線ニュース NO.114
発行：リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会
天野捷一（中原・高津）090-3910-8173
山本太三雄（宮前）090-8775-1879
矢沢美也（麻生・多摩）090-6108-6568

裁判を有効に進めるためには傍聴席を埋めることが大切です。ぜひリニア問題、大深度問題に関心のある方は様々な関連裁判の傍聴参加をお願いします。

・・・・・・・・・・・・・・・・